

「魅せる新工場」で 人と地域を想う ものづくり

東京都大田区に本社を構える日東工器株式会社は、国内トップシェアを誇る迅速流体継手「カブラ」や機械工具などの製造・販売を手がける大手機械工具メーカーです。福島県福島市内に新たな生産拠点となる新工場が今年5月に完成、7月中旬から稼働するにあたり、同社の小形明誠代表取締役社長に建設の経緯や福島への思いをお聞きました。



完成した東北日東工器の新工場(住所／福島県福島市大笹生字宮ノ下1-1)



日東工器株式会社 代表取締役社長 小形 明誠氏

おがた・あきのぶ／1954年福岡県生まれ。1978年慶應義塾大学経済学部卒業、同年三菱商事入社。新エネルギー・電力・環境インフラ事業などに携わる。2015年リチウムエナジー・ジャパン副社長。2018年に日東工器株式会社の創業者である故・御器谷俊雄会長より事業を引き継ぎ、同社代表取締役社長に就任。

社会に貢献できる 製品の開発を推進

—御社の事業内容をお聞かせください。

当社は1956年に創業し、来年で設立70周年を迎えます。事業内容は、迅速流体継手「カブラ」、機械工具、リニア駆動ポンプ、建築機器「ドアクローザ」など、省力・省人化の技術を活かした製品の製造販売を行っています。創業者である故・御器谷俊雄会長が「開発は企業の保険なり」を社是に掲げ、自動車・鉄道・船舶・航空機をはじめ、医療や住環境など幅広い分野において産業の発展と社会に貢献できる製品開発に力を入れてきました。経営方針の柱は3つあり、私が創業者より受け継いだことは、第一に「社会への貢献」、第二に「従業員の幸福」、この2つがあって初めて第三の「会社の発展」が実現する、この順序を大事に守り続けることでした。

—主力製品をいくつかご紹介ください。

迅速流体継手「カブラ」は、空気や液体を流す配管を素早く接続・分離できる接続機器で、これまでお客様のニーズに応じて約2万5千種類を開発し、国内では6割ほどの高いシェアをいただいています。製品の一例を挙げますと、半導体製造設備用に開発した「コンパクトゼロスピルカブラ」は、小型ながらも大流量で、データセンターなどで採用されています。また、燃料電池自動車への高圧水素の供給・充填を目的として、技術的には難易度が高いものでしたが、日本で初めて



(左)さまざまな流体を迅速につなぐ迅速流体継手「カブラ」
(右)静かでスムーズなドアの開閉を可能にする「ドアクローザ」

燃料電池自動車用のカブラを開発しました。

「ドアクローザ」はドアを静かで安全に開閉することを可能にした製品で、公共施設やオフィス、医療施設のドアの他にも、東海道新幹線の男性用トイレのドアにも使用されています。また海外でも、有名テーマパークのアトラクションゲートなどにもご使用いただいております。世界200社以上のメーカーの製品の中から当社の「ドアクローザ」が安全性の観点で評価を受けて採用いただきました。この評価には励まされ、大きな自信につながりました。

福島市に新工場を建設 従業員が誇りをもてる工場へ

—福島市内に完成した新工場についてお聞かせください。

今年5月に当社の新たな生産拠点が無事完成しました。場所は、東北中央自動車道ICに直結する「福島おおぞらインター工業団地」内で、「道の駅ふくしま」に隣接。約2万8000平方メートルの敷地内に鉄骨造2階建の工場を建設しました。設立の背景としては、山形県山形市と福島県白河市にあったグループ会社の工場が老朽化していたことから、2つを最新鋭の設備を導入した新工場に統合し、より高い生産性と品質向上を目指すことにありました。

今回、多くの従業員が福島市への転居を決意してくれました。従業員の技術力はかけがえのないものですので、皆が働きやすい環境を整えたいという思いと、福島市や県などからの熱心なご誘致もいただき、福島の地に建設させていただきました。

—新工場の建築デザインについてお聞かせください。

私は当初から、「従業員が誇りをもてる新工場にしたい」という強い思いがありました。その思いを実現してくださったのが、建築家の芦原太郎先生と隈研吾先生です。今回、お二方に共同でデザインをしていただきました。実は隈先生は、私の大学時代の友人です。新工場を建設するならば、世界で活躍されている隈先生



従業員の安全と健康を最優先に考え、オイルミストの低減など快適で清潔な作業環境を整備。

にぜひともお願いしたいと依頼したところ、私の思いを受け止め、引き受けてくださいました。

隈先生は、吾妻連峰を一望できる自然豊かな土地を大変気に入ってくださいました。どの角度から見ても美しい建築になるようにと、現場を丹念に歩いて確認されていました。

新工場のコンセプトは「魅せる工場」です。完成した建物外観は、周囲の環境と調和したデザインで、ファサードはガラス張りによる開放的な空間を実現しました。福島産の木材を利用した軒は、柔らかく美しい曲線を描いています。また、建物内部は、2階から生産ラインを見渡せる設計にもなっています。敷地内に植えられた植栽の一部は隈先生による選定で、細部にまでこだわりが詰まった工場が完成し、大きな喜びを感じています。

雇用創出や地域の賑わい 福島の復興に寄与したい

—福島に対して、どのような思いがありますか。

「福島の復興に寄与したい」。この思いも、福島に工場建設を決めた大きな理由の一つでした。個人的な

話になりますが、東日本大震災では前職の商社の仕事で被災地支援に携わり、個人で災害ボランティアに参加したこともありました。東北を応援したい気持ちはずっと持ち続けていました。

当社の工場ができることで、地域の雇用創出や地元製品の購入などに貢献できると思います。福島市や県の皆様も協力的で、地元の学校や企業をご紹介くださり、地域社会との連携を深めています。また、工場の隣には「道の駅ふくしま」があります。今後は工場見学の受け入れなども進めたいと思っており、道の駅とあわせて観光振興に寄与できることを期待しています。当社の従業員も福島に通うようになり地元の方々と交流を重ねて、福島を好きになってくれるようで嬉しい限りです。

—企業として、さらなる発展へのビジョンは、どのように描いていますか。

新工場を当社全体のさらなる発展の基盤にしていきたいです。将来的に「モデル工場」になるよう最新設備を導入し、省力・省人化、効率化を進めていくとともに、安心安全でより高品質な製品の開発を推進していきます。現在、日本においては栃木県さくら市にある栃木日東工器で「カブラ」やリニア駆動ポンプを製造しており、新工場では「ドアクローザ」や機械工具などを製造しますが、将来的には新工場が当社の全製品を生産できる「マルチ工場」になるよう、体制を整えていきたいと思っています。

製品開発をしながら成長を続けるためには、SDGsの観点や環境問題への配慮が非常に重要です。新工場では、脱炭素社会に向けて使用電力を減らし、環境に配慮した生産体制を整えていくことが、この地であれば実現可能だと考えています。コーポレートスローガン「技術で、人を想う。」のもと、人と地域を想い、協調しながら、これからも持続的成長と社会への貢献を目指していきます。

MESSAGE 建築家・隈研吾氏

福島の自然の中で、温かみある 「世界のモデル工場」を

大学時代の友人である小形氏の熱意を感じて、私は工場デザインを手がけるのは初めてでしたが、引き受けました。建設地は、思った以上に山々の美しさを感じられる場所でした。この自然の中で、温かさや柔らかさがあり、これからの時代に求められる「世界のモデル工場」をつくりたいという思いで芦原先生とともにデザインしました。ファサードも、繊細で人間味あるデザインになりました。従業員の皆さんには、福島を自然を感じながら新しい働き方をしていただきたいです。

日東工器は技術的に最高の製品をつくっておられます。東北日東工器の新工場建設をきっかけに、さらに大きく羽ばたいてほしいです。

Profile くま・けんこ／1954年生まれ。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。50を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案している。



建設中の現場を訪れた隈研吾氏と小形明誠社長